

平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	千葉県立関宿高等学校
-------	------------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input type="checkbox"/>	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input checked="" type="checkbox"/>	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
千葉県教育委員会	高等学校	全日制の普通科	ちばけんりつせきやどこうとうがっこう 千葉県立関宿高等学校

2 研究課題

全日制普通科高等学校における発達障害を含む障害のある生徒のキャリア教育の在り方について
～中学校との連携を活かす～

3 研究の概要

進路指導主事、就職支援コーディネーターを中心にして、ハローワークや特別支援学校等の関係機関との連携、近隣企業との協力関係強化を図るとともに、継続的に生徒の支援を行う組織的な体制を校内に確立する。また、障害の有無にかかわらず生徒の自己肯定感を高め、将来を見据えて職業的自立を促すキャリア教育を一層すすめるため、校内全般の教育活動を見直すとともに、連携型中高一貫教育の特性を活かして中学校と高等学校が協力してキャリア教育を推進していく指導体系を研究する。

具体的には、特に発達障害のある（疑われる）生徒の就労の定着化のために、雇用への理解、就労環境の改善、短期間での離職の予防などを近隣企業へ働きかける。またモデル校における教員研修会の実施、生徒向け講演会や就業体験等の実施、就職支援コーディネーター等によるソーシャルスキルの指導及び個別面談による指導・支援の充実を図り、生徒の進路実現に繋げる。中高一貫教育の担当者会議を中心に、生徒の特性など生徒情報の確実な引き継ぎを図る仕組みの構築とともに、中学校・高校の継続したキャリア教育の推進を図る。

4 研究の成果

就職支援コーディネーターの配置により、障害のある生徒に対する支援が充実し、生徒や保護者にとって、安心して相談できる体制づくりが整備された。ハローワークや地元企業をはじめとする外部関係機関からの指導や助言を受ける機会が増えたことにより連携協力体制が前進した。

発達障害を含む障害のある生徒に対する職員の意識改革が進み、生徒の障害の状態や特性、教育

的ニーズを踏まえた生徒指導体制の重要性が改めて認識された。とりわけ、生徒の特性や実情をきめ細かく把握するための様々な調査・検査等を実施し、校内全体での情報共有が図られた。

また、特別支援学校のノウハウを活用し、障害を持っている3年生に対して、就労に向けた継続的な個別の指導・支援により就職内定を得ることができた。特別支援学校等のキャリア教育を参考に、卒業後の生徒に対する支援システムを構築することを目指し、「関宿高校キャリア発達支援センター」を立ち上げて2年目となる。障害のある生徒だけでなく本校を卒業した全ての生徒に対して、学校が就職支援コーディネーターを活用しながら相談機関の一つとして相談・支援をするとともに、卒業生の追跡調査等も検討していくことが進められた。

中高の連携の側面では、合同の研修会の実施や定期的な連絡会を実施した。また、近隣地域の中学校からの進学者について、中学校教員から新たに特別支援教育やキャリア教育の視点でこれまで以上に生徒情報の提供がされるようになった。

5 課題と今後の方策

- ・就職支援コーディネーター、特別支援教育コーディネーターと進路指導部職員との連携会議を定例化することにより、入学後の早い段階から個別の支援計画作成と職業体験等につなげていく体制を構築する。
- ・「関宿高校キャリア発達支援センター」の役割を生徒や保護者に周知するとともに、機能の充実のために関係機関との連携強化を図る。
- ・ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業改善をすすめるとともに、キャリア教育の充実に向けて年間指導計画の点検と改善を継続する。
- ・職員の研修をさらに進め、理解の促進を図ること。また、組織的な体制・対応の充実を図ることが課題である。さらに、対応する職員の確保を関係機関に働きかける。
- ・家庭との協力関係の深化が必要なことから、日常の信頼関係の構築に留意する。